

未来の学校づくりを 考えるプロジェクトだより

第 6 号

令和 5 年 1 月 30 日 発行
納 所 小 学 校 P T A
未来の学校づくりを考えるプロジェクト

プロジェクト活動報告会を行います！

令和 3 年 7 月に活動を開始した本プロジェクト。

この 2 月には本プロジェクトの活動報告会を開催します。アンケート概要を中心にお伝えし、質疑応答の時間も設けます。ご多忙と思いますが、是非、ご参加ください。

なお、令和 4 年度内に P T A 総会（もしくは臨時総会）へ洛水中学校区での小中一貫教育校について提案する予定です。

- 活動報告会（同内容を 2 回開催） *別途配布の案内もご覧ください。
 - ・日時 令和 5 年 2 月 1 6 日（木）① 1 6 時～1 7 時 ② 1 9 時～2 0 時
 - ・場所 会議室 ・内容 検討経過 アンケート結果概要 質疑応答



アンケートのご協力ありがとうございました！

「未来の学校づくりを考えるプロジェクト」アンケート結果

- 実施日 令和 4 年 1 1 月 8 日（配布）
- 回収率 1 3 5 件の回答（回収率 約 8 割）
- その他 「プロジェクトだより第 5 号」（9 月 8 日実施の講演会の概要）を合わせて配布

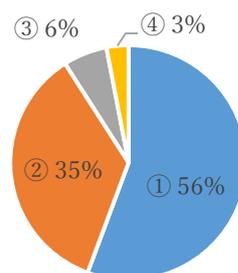


小中一貫教育、小中一貫教育校について

Q 1 子どもたちは小学校 1 年生から中学校 3 年生までの義務教育 9 年間の中で、日々の学習を積み上げ成長していきます。

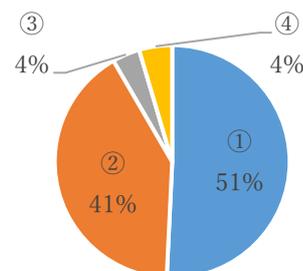
小学校と中学校が義務教育 9 年間の全体像を把握し、学習指導や生徒指導において小中教職員が協働して取り組む「小中一貫教育」についてよいと思われますか？

- ①子どもにとってよい仕組みだと思う（7 4 件）
- ②わからない（4 7 件）
- ③子どもにとってよい仕組みだと思わない（8 件）
- ④その他（4 件）



Q 2 思春期の開始時期が早まっているなど発達の早期化への対応として、柔軟な学年段階の区切り（1～4 年、5～7 年、8・9 年）が設定できるなど「小中一貫教育」をより効率的に実施できる「施設一体型の小中一貫教育校」（1～9 年生までの児童生徒が通う学校）は子どもにとってよいと思われますか。

- ①よい仕組みだと思う（6 7 件）
- ②わからない（5 4 件）
- ③よい仕組みだと思わない（5 件）
- ④その他（6 件）



【Q 1 及び Q 2 のまとめ】

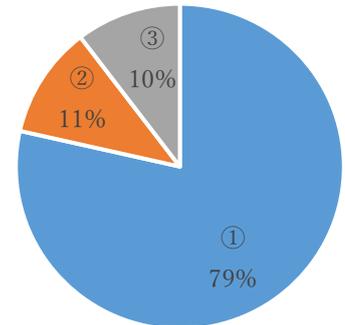
両設問ともに「よい仕組みだとは思わない」という否定的なご意見は 4～6%にとどまり、「よい仕組みだと思う」という肯定的なご意見が半数を占めています。一方、「わからない」とする意見が約 40%程度。



通学関係

Q 4 (1) 通学が大きな課題となりますが、通学への何らかの支援が必要だと思われますか。

- ① 思う (106件)
- ② わからない (15件)
- ③ 思わない (14件)



Q 4 (2) どのような通学への支援が必要ですか。(自由記述)

主なご意見は以下のとおりです。

<負担軽減の支援>

- ・バス等の利用
- ・バス等の利用に伴う費用負担
- ・子どもの荷物を減らすこと

<通学安全の支援>

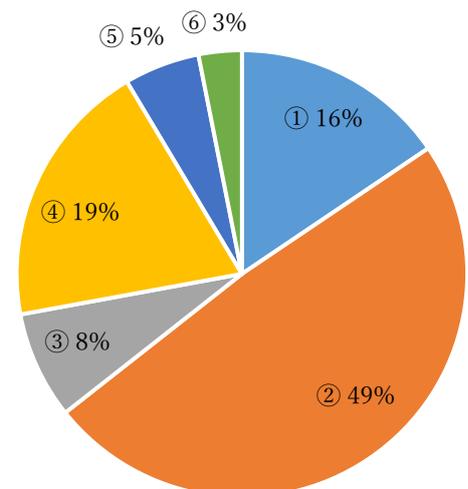
- ・保護者や地域による見守り
- ・通学安全全般
- ・歩道整備

【Q 4 (1) (2) のまとめ】

通学支援は8割が「必要であると思う」との回答です。自由記述は、負担軽減として「通学にはバス等の利用が必要」との意見がもっとも多く、「低学年に支援は欠かせない」とのコメントも少なくありませんでした。また、通学安全のためには、「見守りが必要」「通学安全全般に万全を期してほしい」との意見が多くありました。

Q 4 (3) 通学に関する課題が解決するとして、洛水中学校区の小中一貫教育校の創設について、どのように思われますか。

- ① 子どもにとってよい仕組みだと思う (20件)
- ② 支援の内容次第であるものの、子どもにとって
おおむねよい仕組みだと思う (63件)
- ③ P T Aの検討に任せる (10件)
- ④ わからない (25件)
- ⑤ 子どもにとってよい仕組みだと思わない (7件)
- ⑥ その他 (4件)



【Q 4 (3) のまとめ】

小中一貫教育校について、通学に関する課題が解決するとして、「よい仕組みだと思う」「支援の内容次第であるものの、子どもにとっておおむねよい仕組みだと思う」と合わせると64%。肯定的な意見が多数です。「P T Aの検討に任せる」まで含めると72%。「よい仕組みだと思わない」は5%でした。



通学以外の課題、不安など



Q5「通学以外の課題」は30件、Q6「期待や不安など」は39件のご意見をいただきました。できるだけご理解いただけるよう、主な「課題」「不安」に関してQ&Aとしてまとめました。

<教育内容>

1. 将来、学校規模が小さくなり、1学級あたりの人数が少なくなる場合も、少人数のよさもあるのでは？

⇒ 児童数が減少し、1学年1クラスの小規模校になると「丁寧で手厚い指導を受けられる」「学年を超えた交流ができる」など良い点はありますが、6年間クラス替えができず人間関係が固定化し、多くの友達との交流の中で多様な考え方や意見に触れ、お互いに切磋琢磨しながら成長できる機会が減少することが考えられます。さらに学級の児童数が減少すれば、男女比が偏り集団での教育活動に制約を生じることがあります。

2. 小学1年生と中学3年生では体格や年齢が違いすぎるので心配です。

⇒ 開校している京都市の小中一貫教育校では、中学生が小学生と共に学校生活を送ることで、中学生が小学生に優しく接し、中学生として手本となる思いになり、そうした姿を小学生が見て憧れの気持ちを持つなど、お互いの相乗効果ができていると聞いています。



3. 子どもたちは小中一貫教育校になじめるでしょうか。

⇒ 施設一体型の小中一貫教育校では、義務教育9年間の一貫した教育目標の下、小学校教員と中学校教員が日頃から連携し、小中の教員が一体となって全児童生徒一人一人に丁寧に関わり支援することで、子どもたちは落ち着いて学習に取り組み、安定した学校生活につながっています。また、洛水中学校区で小中一貫教育校が創設された場合、全学年で複数学級の見通しであり、クラス替えは可能になります。

4. 学校行事はどうなりますか？

⇒ 小中一貫教育校では、1年生時の入学式や9年生（中3）時の卒業式は行っています。6年生時の卒業式は実施していませんが、それに代わる前期課程（1-6年生）修了式を実施している学校や各ステージ（ファーストステージ 1-4年生、セカンドステージ 5-7年生、サードステージ 8-9年生）の終了時にステージ修了式を行っている学校があります。

体育大会や運動会を全校で行う学校も多く、その他、8年生（中2）と4年生が合同で行事を行うなど、9年間の縦のつながりを重視した取組が行いやすいという利点が報告されています。

5. 中学校の先生が生徒を指導する場面は、それを見る小学生にストレスでは？

⇒ 小学校から中学校への進学に際して、生徒が体験する段差の大きさに配慮し、その間の接続をより円滑なものとする取組を行いやすくできるのが小中一貫教育校になります。

小学生の段階で中学生の雰囲気を知り、交流等を行うことにプラスの面もあります。また、小・中学校の今までの指導の在り方を見直し、9年間で子どもを育むという視点での指導が大切にされるようになっていきます。

<環境整備等>

6. 通学安全対策はどうなりますか？

⇒ 通学に関する課題などは、洛水中学校区全体に関わるものになるため、小中一貫教育校の創設を進めることになった場合、要望書の提出後、両地域や3校PTAでしっかり検討し、解決していく手順を進めます。京都市に対しては今後、最大限の対応を求めています。



7. 洛水中学校の敷地面積で足りるますか？

⇒ 平成31年度に開校の向島秀蓮小中学校は、洛水中学校よりも少し狭い敷地面積で830名（令和4年度）の子どもが学んでおり、洛水中学校の敷地でも児童生徒の教育活動を十分行うことができると考えています。※横大路小・納所小・洛水中の合計人数645名（令和4年度）

8. 中学生の給食はどうなりますか？

⇒ 施設一体型の小中一貫教育校では、小学生に給食を提供するため給食室が整備されるため、中学生にも小学生と同じ自校調理方式の給食喫食が可能となるので、関係する小中学校の保護者の皆様で、中学生には現状の選択制の中学校給食か自校調理方式の給食が良いのかを検討いただいています。

9. 標準服（制服）は導入されますか？

⇒ 給食の検討と同じく、関係する小中学校の保護者の皆様に、標準服の着用学年やデザイン等について検討いただいています。京都市の小中一貫教育校では、小学校1年生から着用している学校や、児童生徒の発達段階に応じたステージ制（4・3・2）の学年区分の区切りとなる5年生から着用している学校があります。

10. 小中一貫教育校に円滑な移行ができますか？

⇒ 洛水中学校区においては、納所小と横大路小・洛水中との小中一貫教育にこれまでから取り組んでいるところです。京都市の小中一貫教育校では、統合が決まれば更なる子ども同士の交流や教員の連携を図ることで、一人ひとりの子どもが新しい教育環境に溶け込めるよう工夫されていると聞いています。

<その他>

11. 学童はどうなりますか？

⇒ これまで、学校統合後も学童クラブ事業は維持されていますが、統合になる場合は、関係機関において保護者のニーズを踏まえ検討されると思っています。

12. 統合すれば、子どもたちの校区が広がるので、放課後が心配です。

⇒ 学校及び家庭での新たなルール作りを行うこととなります。

13. 閉校後の学校はどうなりますか？避難所の機能は？

⇒ 一般的に、閉校後の学校施設は、跡地活用が決定するまで、教育委員会の管理の下、統合先の学校の部活動等の教育活動の他、これまでと変わりなく地域の自治活動や避難所として、引き続き利用いただいています。

跡地活用については、学区住民の意見を十分お聞きしながら、行政・関係機関等において検討が進められます。



【Q5・Q6のまとめ】

通学以外の課題（Q5）についての設問には、「中学生と一緒によくないこともあるのでは？」「どう変わるのか？」「やはり小中は別がいい」といった様々な意見、教えてほしいこと、知りたいことも回答にありました。不安（Q6）には、やはり通学に関することについての意見が多かったです。不安はあるものの教育内容や施設が充実するなどの期待もある、との意見もありました。

「未来の学校づくりを考えるプロジェクト」から



この10月20日（第6回）から1月12日（第9回）の間の4回の打合せでは、初めて実施するアンケートの準備・まとめ・検討を行いました。お忙しい中、たくさんの方から回答をいただき、多くの方が小中一貫教育校に前向きであることがわかりました。

「小中一貫教育」「小中一貫教育校」に関する理解を深めていただく機会として、また、みなさまの意見を丁寧に聞き取らせていただくために、現在、2月に開催する本プロジェクトの活動報告会の準備を進めています。

また、活動報告会の日以外においても、ご意見などありましたら、特別委員会委員または学校にお聞かせください。2月2日（木）18時30分から特別委員会（第10回）を行いますので、こちらへの参加もできます。どうぞよろしくお願いいたします。

9/8実施の講演会「子どもたちが生きる社会と育てたい力 - これからの学校の在り方を考える -」のDVDを貸し出します。ご希望の方は学校若しくは特別委員会の委員へお声かけください。

